



2021年7月13日

各 位

会 社 名 株式会社ジェイテックコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 津村 尚史
(コード番号：3446 東証第一部)
問合せ先 取締役管理部長 平井 靖人
(TEL. 072-655-2785)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年7月13日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2020年8月12日に公表しました2021年6月期の通期業績予想を修正することにしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年6月期通期業績予想値の修正 (2020年7月1日～2021年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,443	215	237	163	28.03
今回修正予想 (B)	820	△278	△246	△189	△32.33
増減額 (B - A)	△622	△494	△483	△353	
増減率 (%)	△43.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2020年6月期)	1,027	5	34	16	2.79

2. 2021年6月期通期セグメント別売上高予想値の修正 (2020年7月1日～2021年6月30日)

	オプティカル事業	ライフサイエンス・ 機器開発事業	合計
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	1,033	410	1,443
今回修正予想 (B)	519	301	820
増減額 (B - A)	△513	△108	△622
増減率 (%)	△49.7	△26.6	△43.2
(ご参考) 前期実績 (2020年6月期)	833	194	1,027

3. 修正の理由

当社は、2つのセグメントを有しております。「オプティカル事業」ではX線ナノ集光ミラーの受注生産を行い、「ライフサイエンス・機器開発事業」では主力となっている機器開発製品において、主に受注生産を行っております。

今回、それぞれのセグメントにおいて売上高・売上総利益が前回発表時の予想値より下回る見込みであるため、業績予想の修正を行うこととなりました。

販売費及び一般管理費項目・営業外損益項目・特別損益項目につきましては、大半の項目が固定費であり前回発表時点からの大きな乖離は無いため、売上高・売上総利益が予想値より下回ったことが業績予想の修正の主な要因となります。

また、2021年5月31日に子会社化した「電子科学株式会社」につきましては、株式のみなし取得日が2021年6月30日であるため、2021年6月期の連結損益に与える影響は軽微であります。

<オプティカル事業>

新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、2021年6月期の後半において徐々に回復してくるものと考え業績予想を策定しておりましたが、その後変異種が蔓延したこと等もあり、結果としては年度を通じて大きな影響を受けることとなりました。

その中でも、国内売上への影響は殆どなく、アメリカ、中国、欧州等の海外売上への影響が大きく表れたことにより、前回予想を下回る結果となりました。

売上が偏重する第4四半期の最終の出荷状況まで精査した結果、2021年6月期の売上としましては表記の通りとなる見込みであります。

足元の受注状況においては、2021年6月3日にPR情報にて開示しました米国大型放射光施設APSからの約2億円の大型受注や、中国の各放射光施設から多くの受注を随時受けている状況であり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が収まりつつある状況ではありますが、当社のX線ナノ集光ミラーの出荷までのリードタイムが約1年であるため、これら受注分の売上計上は2022年6月期以降となります。

また、現在までに新型コロナウイルスによる当社工場への影響は出ておりません。

<ライフサイエンス・機器開発事業>

水晶振動子ウエハ加工システムについて、装置全体のシステムの最適化及び最終調整に時間を要しておりましたが、第4四半期中に検収となり売上計上を行いました。

また、海外向けの同種の製造システムの販売を見込んでおりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により当該地域でのロックダウンが行われ、先方企業の生産計画の見通しが立たず商談が一時ストップしたことにより計画が遅れることとなりました。その結果、2021年6月期の売上としましては表記の通りとなる見込みであります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上